

小さくてもしっかり目標をもって勉強しよう
—— 「自覚」をもった勉強が「成果」に直結 ——

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：勉強がよくできるようになるには、どのようにすればよいですか。

A：(林 明夫。以下略)「自覚」をもって勉強することです。「教育成果」は、「本人の自覚」と「先生の力量」によって決定されます。先生方には、「先生としての力量」を向上させることをめざして日夜努力してもらいたいと希望します。塾生の皆様には、「自覚」をもって毎日の勉強に臨むよう希望いたします。また、保護者の皆様には、お子さま方の「自覚」を促すような配慮をお願いいたします。

Q：「自覚」をもって毎日の勉強に臨むには、どのようにしたらよいのですか。

A：例えば、授業中であれば、「今日はこれについて勉強しようね」と、授業ごとにその日の目標が先生から示されることが多いと思われます。その目標を、「うんなるほど」としっかり「理解」し、「自覚」しましょう。さらに、授業中は折に触れて、その目標を自分で「確認」すると、素晴らしい結果に結びつきます。

Q：授業が終わった後に、自分自身で「定着」のための作業をするときは、どのように「自覚」したらよいのですか。

A：これから行うのは、一度授業で「うんなるほど」と「理解」した内容をしっかり身に付ける、つまり「定着」のための作業であると「自覚」すると、よい「教育成果」が生まれます。

ただ何となく机に向かって「ぼんやり」と時間を過ごしているよりは、自分がこれから行おうとしていることや今行っていることの意味をよく考え知っている、つまり「自覚」している方が、よい「教育成果」を期待できるからです。

開倫塾では、「定着」のための作業が十分行われたかどうかを確認するために、「確認テスト」を授業の度に行っています。「確認テスト」で100点を取るために「定着」のための作業を確実に行おうと考えることも、「自覚」を高めるよい方法です。

Q：中間試験や期末試験、実力試験でよい点数を取ろう、英検、漢検、数検、入学試験などの試験に合格しようという目標をもつことも、「自覚」をもつことになるのですか。

A：その通りです。テストでよい点数を取ろう、テストに合格しようという目標をもつことは、「自覚」をもって勉強することに繋がります。ダラダラ勉強する数十倍の「教育成果」を生みます。ぜひ、自分自身の力で、テストでよい点数を取ることや試験に合格することをめざしてください。

Q：開倫塾でよく言われる「学習の3段階理論」、つまり「理解」→「定着」→「応用」の最後の「応用」の段階でも、「自覚」をもって勉強することが大事なのですね。

A：その通りです。定期試験でよい点数を取ること、入学試験や検定試験で合格できるだけの点数を取ることを、開倫塾では「応用」と言っています。この「応用」力を身に付けるには、全身全霊を傾けて本気になって行わなければなりませんので、大量のエネルギーを使います。そのエネルギーを生み出すのが、「本人の自覚」です。ぜひともよい点数を取ってやる、何が何でも合格を勝ち取ってみせるという「自覚」をもった勉強が、素晴らしい「教育成果」を導きます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：何のために勉強するのか、何のために人は生きるのか、勉強の本当の意味、人生の意味を考えることも「自覚」を促すよい方法です。

Q：改めてお聞きしますが、人は何のために勉強するのですか。

A：「よりよく生きる」ためであると私は考えます。皆様にとって「よく生きる」「よりよく生きる」とはどういうことかはとてもよいテーマですので、ぜひお考えください。

新聞を、毎日丁寧に、丁寧に、なめるように読んでみると、解答が見つかるかも知れません。学校の教科書に出てくるような人物の伝記やその人たちの書いた本をゆっくりと考えながら読むことも、「よりよく生きる」ことを考えるきっかけになります。

では、頑張ってください。